

チェルノブイリ通信

<http://www.cher9.to/tusin.html>

NPO法人
チェルノブイリ医療支援ネットワーク
〒811-3102 福岡県古賀市駅東2-6-26-203
TEL/FAX: 092-944-3841
E-mail: jimu@cher9.to



チェルノブイリ医療支援ネットワーク(CMN)は、チェルノブイリ原発事故で被災した人々のために、現地から求められる医療支援を行います。この活動を通して、日本とベラルーシの人びとの心と心のつながりを深めます。

No.
102

第3回広域被災者ネットワーク会議

CONTENTS

会議の概要と那須塩原市からの報告 / ベラルーシ訪問レポート&インタビュー / 支援先の医療機関紹介 / エンパワーメント研修レポート / 活動報告会レポート / 2016年度総会報告と新運営体制のおしらせ / 支援者のお名前とメッセージ / 事務局からのおしらせ / 編集後記



1月のベラルーシ訪問。ミンスクにてリューダさん母娘と再会

あなたもチェルノブイリを支える一人になっていただけませんか？
ご寄付を受け付けています。

郵便振替口座 01770-1-65328
楽天銀行 ジャス支店（支店番号201）（普）7017104
住信SBIネット銀行 法人第一支店（支店番号106）（普）1030416



本紙はCMNの活動を支援してくださっている皆さまへお届けしています。また団体ウェブサイトでもPDFファイルにてご覧いただけます。送付がご不要な場合は事務局までご連絡ください。



REPORT

第3回広域被災者ネットワーク会議



2015年12月12、13日に福島県郡山市の「郡山医療生活協同組合 桑野協立病院」で開催された広域被災者ネットワーク会議に出席して来ました。

今会議は、獨協医科大学国際疫学研究室の木村真三准教授の主催で開催され、福島第一原発事故の被災者、県外避難者を支援している団体や組織が現状報告・議論によって、より良い支援環境を構築する目的で構成されました。

最初に、主催者の木村真三先生のご挨拶で会議の趣旨・目的についてのお話があり、続いて当団体の医療顧問でもある山田英雄氏による基調講演が行われました。「失敗から学ぶ支援のあり方」という内容で、当団体のこれまでの活動や失敗から得た教訓を伝えました。参加者の皆さんも、医療支援の重要性や困難な側面を真剣に聞き入っておられました。

その後、現場からの報告として那須塩原市の三つの団体から事例報告が

なされました。

今会議で報告された事例は、福島第一原発事故から5年経った現在でも、担当省庁等の制限で放射能対策が未実施または進んでいないという事実があり、福島県と周辺自治体との対策の格差という現実があります。

放射能汚染によって環境が破壊されると回復は長く困難です。私達はもう一度、原発事故に対して正しい見識を持たなければならないと思います。

(CMN理事／和田幸策)



事例1 「関谷・下田野地区みらいを考える会」からの報告より

- ・2011年5月新聞で地元の小・中学校のグラウンドの空間放射線量の発表が行われた。
 - ▼関谷小学校:毎時1.24 μ Sv (マイクロシーベルト)、金沢小学校:毎時1.55 μ Sv(地面から50cmの高さ)
 - ▼箒根中学校:毎時1.62 μ Sv(地面から1mの高さ)
- ・新聞発表では文科省の暫定基準を全て下回った。通常時の年間被ばく限度量は1mSv (ミリシーベルト) であり、毎時にすると0.23 μ Svである。
- ・2011年夏休みに放射線量が高い関谷小・金沢小・箒根中で、グラウンドの表土除去が行われたが、この一回の除染作業で終了した。
- ・2012年11月木村真三先生にご講演して頂き、汚染状況のデータが必要ということで、翌2013年1月に通学路・公園・公民館・各自宅で空間放射線量の測定を開始。この結果、関谷地区全てで除染基準以上の0.23 μ Sv以上の数値が出た。
- ・関谷・下田野地区の汚染物質の公共仮置場を設置するように市側に要望したが、全く動きはない。



左／講演中の山田英雄氏(写真右)
上／会議の主催者 木村真三准教授(写真左)



事例2「那須塩原放射能から子どもを守る会」からの報告より

- ・ 医師による甲状腺エコー検査を市民が受けられるように陳情書を市に提出したが、市の放射線アドバイザーにより甲状腺検査の必要はないとの判断が下された。市側の説明によると「市民の不安を軽減させるために、あえて甲状腺検査は行わない」とのこと。現在は、茨城県の常総生協が運営している関東子ども健康調査支援基金の協力で毎年6月に甲状腺エコー検査を行っている。
- ・ 9千人の署名を集め、市内全校の除染を求めた。市議会の決議は通っているが市長が行動しない。
- ・ 一般家庭の庭の空間放射線量を測定したところ、毎時0.6～0.7 μ Sv(地面から1mの高さ)だった。



事例3「三島地区コミュニティまちづくり部」からの報告より

- ・ 文科省が事故後、航空モニタリングから作成した汚染マップによると、福島県と栃木県に放射性物質が飛来した境目はない。
- ・ 2011年9月市内317か所で空間放射線量を測定した。アスファルト道路:毎時0.5 μ Sv以上(地面から50cmの高さで111か所の35%、測定値の最大で1 μ Sv)。道路から外れた草むら:毎時0.5 μ Sv以上(地面から50cmの高さで218か所の68.9%、測定値の最大は2.23 μ Sv)。
- ・ 2011年11月西三島自治区の道路以外の草むら245か所を測定したところ、平均毎時0.41 μ Sv、最大測定値は1 μ Sv。2015年11月に同じ場所で測定したところ、平均毎時0.16 μ Sv、最大測定値は0.5 μ Sv。
- ・ 市では3年間かけて13786棟の住宅除染を行ったが、4974棟で空間放射線量0.23 μ Svを下回らなかった。
- ・ 2012年10月市民が民間の市民測定所にキノコを持ち込んで検査したところ、19635ベクレルの数値が出た。イノシシ肉では、1063ベクレルという放射性廃棄物より高い汚染度であった。(日本の暫定基準では、一般食品で100ベクレル。飲料水は10ベクレル)他に家屋の雨どいに溜まった落ち葉や土を測定したところ1kg当たり81万9千ベクレル、2015年時点の測定値は16万8千ベクレルであった。



厳寒のベラルーシを初体験

昨年10月のベラルーシ訪問はベラルーシの大統領選挙と時期が重なってしまったために、中止となってしまいました。そこで、1月の木村真三獨協医科大学准教授のベラルーシ訪問に同行させていただくことで、昨年出来なかった支援物資などを持っていくことになりました。木村真三先生とは2013年7月に福岡での講演を依頼して以来の関係が続いており、昨年3月には和歌山で開催された日本衛生学会シンポジウムにプレスト州立内分泌診療所のアルツール所長を招聘するなど、木村先生とベラルーシの関係者との関係も深まっています。

今回は、昨年訪問予定だった和田副理事長に代わって、私が参加することになりました。

今回参加したのは、木村先生のほかに、獨協医科大学の小正裕佳子先生、日本医科大学付属病院臨床検査技師の村瀬幸宏さん、ロ



今回訪問の一行(ミンスク駅にて)

シア語医療通訳の山田英雄さんと私の5人です。このうち、私と山田さん、村瀬さんは7日発のモスクワ行きで出発する予定でしたが、ロシアビザに問題があって、予定の飛行機に搭乗することができませんでした。このままで

は訪ベラ中止かという状況でしたが、何とか翌日のウィーン行に切り替えて出発することができました。結局、1日遅れで出発したため、一部に訪問できないところがありましたが、大きな影響はありませんでした。

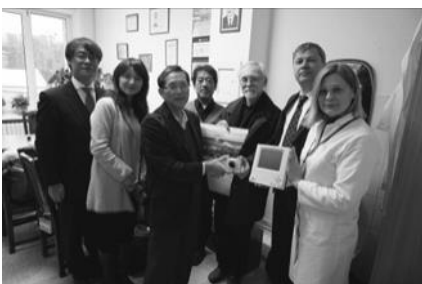
デジタルカメラシステムの設置

今回の訪問の最も大きな目的は、プレスト州立内分泌診療所に顕微鏡デジタルカメラシステムを贈呈、設置することです。以前の訪問時でもデジタルカメラの型が古く液晶ファインダーが小さいのが気になっていました。これを何

とかできないかと、昨年8月にメーカーのニコンインステック様に相談したところ、色々アドバイスをいただきました。そして、3世代前の顕微鏡デジタルカメラシステムなら贈呈できるとの話をいただきました。

そして今回はそのデジタルカメラシ

ステムをプレスト州立内分泌診療所の顕微鏡に接続して使えるようにすることです。デジタルカメラシステムの接続およびセッティングについてはニコンインステック様より説明を受けていたので、不安はありませんでした。ただ、液晶ディスプレイについては現地調達の予定でしたので、接続可能な機種が見つかるか心配でした。幸いなことに、顕微鏡の横にあるパソコンのディスプレイが接続可能と分かり、それに接続して一件着きました。



デジタルカメラシステムを診療所スタッフに贈呈



標本を表示させて性能を確認する

ブレスト州立悪性腫瘍病院でのシンポジウム

ブレストでの4日目にあたる12日、悪性腫瘍病院でシンポジウムが開催された。私たちがブレスト市で検診を始めたのは2003年、その当時から内分泌診療所での検診ということになっていましたが、実は、当時の内分泌診療所は悪性腫瘍病院の一部であったということです。私がブレスト検診に参加するようになった2012年以降は別の建物に独立しており、この悪性腫瘍病院を訪れるのは初めてです。

シンポジウムではまず木村真三先生の講演から始まりました。2011年3月11日の東日本大震災の直後に福島に入り放射線の測定をされたこと、



悪性腫瘍病院で講演する木村真三先生（左）とブレスト州立内分泌診療所・アルツール所長（右）

その時の様子を話されました。そして、福島県での甲状腺がん検査の結果について数字を挙げて説明されています。

獨協医科大学の小正裕佳子先生は、福島の避難民仮設住宅での聞き取り調査について報告されました。小正先生は震災被災者のPTSDについて研究されています。

日本医科大学附属病院の村瀬幸

宏先生は甲状腺細胞診について、標本の見方についておよびパパニコロウ染色とギムザ染色の違いについてなどを解説されました。

13日は早朝の列車でミンスクに向かいました。成田出発が1日遅れたため、ベラルーシ赤十字とミンスク10番病院を午後には訪問することにしたためです。この列車はスイス製の最新式で、所要時間は3時間ほどでした。

ミンスク教育大学

最後の重要な予定は、ミンスク教育大学における原発被災者心理学シンポジウムです。このシンポジウムを中心になって準備したのは、「チェルノブイリ通信」にもたびたび登場しているリュドミラ・ウクラインカさんです。彼女は15歳の時に甲状腺がんと診断され、甲状腺を全摘しています。その経験から、被災者に寄り添うカウンセラーになりたいと心理学を学び、現在ではミンスク教育大学で教鞭をとっています。

昨年、獨協医科大学の木村真三先生と小正裕佳子先生がベラルーシを訪問し、リュウダと出会ったことが今回のシンポジウムにつながっています。このシンポジウムではリュウダの教室の先生だけでなく、大学の副学長も出席してあいさつされるなど、予想以上の展開となっていました。

暖冬だったベラルーシの冬も、帰国が近づいてくる

のに合わせるかのように寒くなっている、とうとうサイクロンがやってくるという情報が流れて、空港閉鎖にならないことを祈りながら早朝の空港に向かいました。

CMN理事／河上雅夫)



左から小正先生、木村先生、ミンスク教育大学の先生方

ブレスト内分泌診療所 アルツール所長へのインタビュー

内分泌診療所の設立は1956年、当時の名称は甲状腺腫大対策病院だった。その後、糖尿病を扱うようになった。糖尿病は内分泌科が担当する。

一番の末端は、まず家庭医・ホームドクターであり、担当地域が割り当てられている。

年に1回、すべての検査をしている。血液検査から結核まで検査する。甲状腺だけでなく、すべての検査を担当している。まず、家庭医が異常を発見したら、それが甲状腺であれば内分泌医のところに来てくる。悪性腫瘍であれば悪性腫瘍病院に連れてくる。地区病院以上のレベルが必要で

あれば州立病院に連れてくる。また、白血病とか複雑な病気の場合は共和国の病院に連れて行く。我々は(共和国の)教授のコンサルトを受ける権利を持っている。

内分泌科医は患者さんをだいたい150人を担当する。甲状腺、糖尿病、合併症を持っていれば神経外科とか、例えば糖尿病の場合はインシュリンなどの医薬品は国が保障する。これは我々の健康保険で保障されている。もし、患者さん自体がほかの検査とか治療を受けたいのなら有料になる。だから、簡単に言えば、有料と無料のサービスから成り立っている。だから、いろんな省がある中で一番予



製本したアトラスと比較するアリーナ医師

算が多いのは保健省である。国家予算の4割が医療関係である。

去年の甲状腺がん発生数は263人である。

甲状腺内視鏡手術の患者さんへのインタビュー



◇アンナ・マローゾバさん(43歳、銀行員)

13歳の時にチェルノブイリ原発事故が発生、当時の13歳と14歳は保養に行かなかった。1988年の学校での健康診断で結節が見つかった。2014年にアルツール医師の診断を受け、結節が大きくなっているということ、汗をかいたり疲れやすくなってきたので、ブレスト州立病院でイーゴル医師の手術を受けた。手術は2時間で、金曜日に手術を受け、月曜日に退院して家に帰った。大した病気はしたことがなく、あるのは甲状腺と糖尿病だけ。糖尿病も今は良好である。13歳の時はかなり体重があった。今は100kg、9年前は80kgだった。

支援先の医療機関紹介① ミンスク10番病院

ミンスク10番病院は1985年に設立され、昨年はちょうど設立30周年となり、記念の広報誌を発行されています。

それによると、内科、外科、麻酔科、眼科などの診療科があり、特に内科が充実しているようです。また、病院内に大統領専用の病室があった(現在は専門病院ができた)ということで、特に信頼の置かれている病院だということがわかります。

私たちが医療支援を始めたのは、1997年7月のストーリン地区第1回移動検診ですが、それに先立つ4月にベラルーシ医学再教育アカデミーのラリサ・ダニーロバ教授を日本に招待し、九州各地で移動検診のキャンペーンを行っています。この医学再教育アカ

CMNが支援を続けている医療機関を数回に分けて紹介していきます。
まず、第1回はミンスク10番病院です。

デミーの臨床部が10番病院であり、そのためダニーロバ教授は10番病院の医師でもあるわけです。

チェルノブイリ原発事故発生当時から甲状腺がんの手術はミンスク1番病院に併設された甲状腺がんセンターのみで行われており、

他の病院では甲状腺がんの手術は行われていませんでした。そして、その手術を受けた患者に後遺症が発生すると、その治療は内科部門の10番病院が担当していたのです。そのため、10番病院の医師たちは甲状腺がん手術の問題についても、当時からよく知っていたのです。10番病院の医師



ラリサ・ダニーロバ教授、スタッフたちと記念撮影

たちが我々と共同で甲状腺がんの早期発見・治療に取り組んでくれたのも、そういう事情がありました。

2012年には清水一雄先生による甲状腺内視鏡手術が行われており、今後もミンスクにおける甲状腺治療の中心となるでしょう。

◇マリア・パブロビッチさん (30歳、心理学者)

プレスト生まれ。8年前に結節が見つかった。それまでは健康上何もなかった。内視鏡とエコー検査を行い、吸引穿刺もやって、アルツールさんのアドバイスで州立病院に行った。手術と言われた。2014年5月に手術をした。手術時間は3時間ぐらいだった。



◇ビクトリア・ブイチコフスカヤさん (34歳、スーパーの監視員)

ゴメリ州、ゲベレチツァという街に5歳までいた。(1987年まで。)5歳のときにプレストに移ってきた。一昨年、よく喉が痛くなったり調子が悪くなったりして、甲状腺の右葉に塊があるのを自分で見つけた。2015年8月にアルツールさんが診察して、吸引穿刺。右の甲状腺肥大と言われた。良性ではあるものの、大きくなる可能性があるということで手術を行った。6日間病床にいたが、現在は健康である。



2015

12/19

2016

1/23

共感者を増やすための 理事・事務局エンパワメント研修



講義後のディスカッションの様子(第1回)

CMNの活動は多くの方からのご寄付によって支えられています。しかし年々支援者は減少傾向にあります。この現状を改善する＝支援者が寄付の効果を実感し、より多くの共感・賛同を得るためには、運営の中核を担うCMN理事および事務局の積極的な関与のもとで事業の成果目標を可視化し、その説明責任を支援者に対して果たさなければなりません。そこで今回、外部ファシリテーターとしてNPO法人ミディエイドさん(※)にご協力をいただき、「事業の目標と成果指標の設定」に関する研修を実施しました。

※NPOやボランティア団体などの相談支援に携わりながら、そうした分野での人材育成・環境整備などに取り組む中間支援組織。



初回の研修ではまず、「目標と成果指標を立てる必要性」について講義を受けました。寄付者が寄付をする理由の多くに「目的への共感」「寄付の用途(有効度)」「成果」が挙げられます。NPOは支援者、特に寄付者に対し、寄付の用途についての説明責任を果たす必要がある(特にCMNの場合は収入に占める寄付金の割合が高いため、寄付の用途をきちんと報告しなければならない)こ

と、寄付者が求める「成果」を出すためには、事業の目標とその成果指標を設計することが重要であることを学びました。

引き続き、現在のCMNの主力事業であるベラルーシ訪問事業を題材に目標と成果指標の設定についてのディスカッションを実施しました。まず現状を把握、分析するため、事業を実施する上でCMNが置かれている環境や強み、弱みなどを各自が出し合って課題を整理、共有しました。大

きな外部環境の変化としては、2011年3月の震災に端を発する日本ーベラルーシ政府間の関係性が挙げられ、また事業における技術提供の部分に関して外部にアウトソーシングしている点から専門家との関係性、位置づけを整理する必要があることを再認識し、専門家の方々と「目標」や「成果」について検討する機会を通じて、より深い関係性の構築を図ることを確認しました。

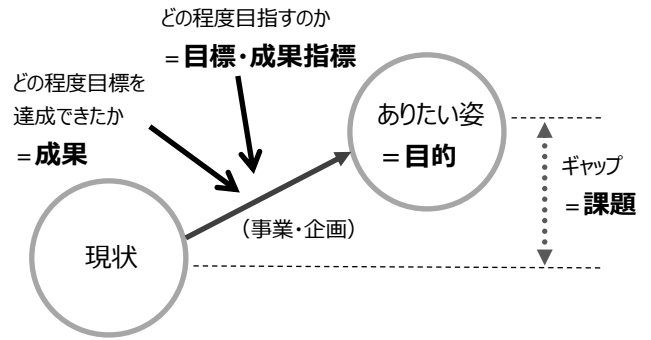
第2回では前回のふり返り、ここ1ヶ月

「結果」「成果」「効果」の違い

結果 =何かしらやれば出てくるもの	目標はあっても無くても出る
成果 =目的・目標の達成した程度	目標設定と達成度を測る成果指標が必要
効果 =現状からの変化の程度	目標が無くても出る可能性はあるが 目標があればより良いものが出る 可能性が高くなる

★一般的に多くの寄付者が求めるのは「成果」

目的・課題・目標・成果の関係

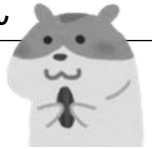


ミディエド理事の宮田さんによる最後のまとめ

研修を終えて

～講師からのコメント～

NPO法人ミディエド
代表理事・今村晃章さん



2回の研修を通し
て、目標と成果

指標を立てることの重要性をCMNの皆さんに理解していただけたことと思います。今後、組織を継続的に運営し事業を実施していくうえで、企画段階から具体的な目標や成果指標を意識して設定するクセをつけ、寄付者の方々の想いや期待に応えられるよう頑張っていたきたいと思います。

本研修の実施にあたり、宗教法人真如苑と(特活)NGO福岡ネットワークとの協働による九州NGO活動助成金「基盤強化助成事業」を活用させていただきました。この場を借りてお礼申し上げます。

今後の組織運営の推進力の向上を図り、寄付者への説明責任を果たしていきたいと思っています。

今後とも共にチェルノブイリ被災者を支える一人となっていただけますようお願いいたします。

の進捗状況を確認した後、ミッションを達成するための法人(=理事)としての責任について改めて知識を深めました。そして「専門家とのより深い関係性の構築を図るために、理事としてどのような行動をとるか」という問いかけに対し、各自が具体案を提示。それらを整理して、今後取り組むべき事項と優先順位について確認、共有しました。

外部ファシリテーターを置くことで、事業や組織運営について客観的に捉えることができ、建設的な議論ができ

ました。特に今後事業を実施していく上で、法人としての共通認識を改めて整理できたこと、法人継続のリスクマネジメントの観点から、NPO法人の理事としての責任と役割について改めて意識づけができたことが成果として挙げられます。またアンケートにて「目標と成果指標についてしっかり考えることができた」「寄付者の共感と納得を得る大切さを理解できた」といった声が複数挙がったことから、研修前後で意識の変化があったことが窺えます。今回の研修で得たことを生かして

活動報告会

2月20日（土）、福岡市NPO・ボランティア交流センター「あすみん」セミナールームで昨年12月の福島訪問および今年1月のベラルーシ訪問事業の報告会を行いました。

今回の報告会では日本医科大学の臨床検査技師である渡會泰彦先生より甲状腺がん検診の

あゆみ、河上理事とロシア語医療通訳の山田英雄さんより1月に行われたベラルーシ訪問、和田理事より12月に行われた福島訪問について報告がありました。その中から渡會先生による報告をご紹介します。

（※福島、ベラルーシ訪問については、2～7ページをご覧ください）

渡會先生は来福の都合がつかず、先生よりいただいた資料を元に河上が代理で報告しました。渡會先生は2003年より計10回検診に参加していただいています。これまでの検診により得られた成果を中心に報告していただきました。

検診の目的は触診やエコーなどの検診技術、細胞診断技術の伝達です。10年間の検診を通し、現地医師は日本の医師を凌ぐ完璧な検診技術

を身につけました。また、細胞診断技術は現地滞在時間が限られているため困難でした。現地には参考となる教科書アト

ラス(細胞の写真集)も存在しなかったため、1年半かけて日本の「ギムザ染色による甲状腺の細胞診」を翻訳し、贈呈しました。このアトラスは基礎



1月のベラルーシ訪問について報告する山田医療通訳(中央右)

的な診断技術を学ぶことができる内容となっています。今後はさらにこの細胞診断技術の伝達を進めていきたいと考えています。

2016年度 通常総会

活動報告会に続き、2016年度総会を開催しました。前年度の事業報告・活動決算報告及び今年度の事業計画・活動予算・会費・役員体制についての審議が行われ、全ての議案が承認されました。前年度の各種事業を実施する上で、会員の皆さまをはじめ、多くの方からご協力、ご賛同を賜りました。この場を借りてお礼申し上げます。

総会はNPO法人における最高の意思決定機関です。CMNでは総会関連の事項、総会で決定した事項の執行に関する事項を検討・決定する場として理事会を設けています。2016年度は以下のとおり、理事長、副理事長および理事の計6名が中心となり、各自が責任を持って組織運営に携わります。また各種事業を円滑に運営するための環境づくり、法人管理部門の各種手続きを担うのが事務局です。今年度は財政的な事情から常勤職員の配置をやめ、事務局長1名+非常勤職員1名の体制となります。今後、電話やメールでのお問い合わせ等に対し、迅速な対応ができかねることも想定されますが、何卒ご容赦ください。

2016年度組織運営体制

理事長	中山悠
副理事長	和田幸策
理事	河上雅夫、川原秀之、小川峰湖、平川可南子
監事	本田正之
事務局	川原秀之、三島さとこ



総会での審議のようす

スペースの都合上、簡単な報告となっております。詳しい資料は、団体ウェブサイトに掲載しています。
ご希望の方には総会資料を送付しますので、事務局までお気軽にご連絡ください。

http://www.cher9.to/kako_katudo.html

2015年度活動決算書(2015/1/1~12/31)及び2016年度活動予算書(2016/1/1~12/31)

(単位:円)

科目	2015年度決算			2016年度予算		
経常収益						
1. 受取会費	120,000	120,000		99,000	99,000	
2. 受取寄付金						
活動支援金	6,358,267			4,500,000		
のぞみ21カンパ	102,678			100,000		
雪だるま3号カンパ	92,784			100,000		
震災支援カンパ	67,085	6,620,814		300,000	5,000,000	
3. 事業収益(※1)						
のぞみ21支援事業	232,720			101,000		
震災支援事業	450			10,000		
物品販売事業	29,500			0		
イベント企画・運営事業	16,000			20,000		
フェアトレード事業	947,690	1,226,360		400,000	531,000	
4. 受取民間助成金	100,000	100,000		200,000	200,000	
5. その他収益(受取利息等)	50,835	50,835		10,000	10,000	
経常収益計			8,118,009			5,840,000
経常費用						
1. 事業費(※2)						
訪ベラ事業	1,171,382			5,228,664		
のぞみ21支援事業	564,710			283,156		
震災支援事業	102,402			397,408		
会報発行事業	3,071,789			961,889		
物品販売事業	90,115			0		
イベント企画・運営事業	31,886			21,282		
その他の情報提供事業	53,753			45,493		
フェアトレード事業	1,221,035	6,307,072		425,687	7,363,579	
2. 管理費						
人件費	96,611			20,890		
その他経費	201,832	298,443		194,531	215,421	
経常費用計			6,605,515			7,579,000
当期経常増減額			1,512,494			-1,739,000
税引前当期正味財産増減額			1,512,494			-1,739,000
法人税、住民税及び事業税			81,000			81,000
当期正味財産増減額			1,431,494			-1,820,000
前期繰越正味財産額			6,436,932			7,868,426
次期繰越正味財産額			7,868,426			6,048,426

※1) 各事業収益の内訳は次のとおりです。【のぞみ21支援:のぞみ21商品売上】【震災支援:缶バッジ売上】【物品販売:カレンダー及び書籍売上】
【イベント企画・運営:講演会等の参加費収入】【フェアトレード:コーヒー・紅茶売上】

※2) 人件費(給料手当、雑給、法定福利費、支払報酬)を含めた金額です。また水道光熱費や支払地代家賃等の共通経費も按分されています。



たくさんのご支援を本当にありがとうございます！
チェルノブイリ被災者支援のために大切にさせていただきます。

お名前掲載について

2015年11月1日～2016年1月31日までに募金をして下さった方、ならびに商品購入を通じて活動を支援して下さいました。同封の振込用紙の「氏名掲載」欄で、「可」の部分へ○印をして下さった方々をご紹介します。掲載を許可される方はぜひご記入をお願いします。なおコンビニやネットバンクからのお振込み等については、許可が確認できなかったものとして、掲載しておりません。募金者名の掲載をご希望の場合は、お手数ですが事務局までご連絡下さい。

マンスリーサポーター募集中！

月々300円からの募金で気軽に、コツコツチェルノブイリ支援をはじめませんか？マンスリーサポーターになると毎月26日にご希望の金額がゆうちょ銀行総合口座から自動的にCMNへ寄付されます。「毎回振り込みに行く手間を省きたい」「無理なく継続的に支援を続けたい」という方にピッタリです。お申込、お問合せは事務局までお気軽にどうぞ！

事務局からのお知らせとお願い

振込用紙は毎月同封しています。これは「思い立った時にいつでも振り込みできるように、毎月同封してほしい」というご要望があったからです。決してお振込を強要するものではありません。恐れ入りますが、ご不要の方は処分をお願いいたします。

住所を変更された方は、事務局までお知らせください。なお今後の資料送付がご不要の場合は、お手数ですが事務局までその旨ご連絡ください。

(順不同・敬称略)

相川美智子 浅原望樹 石橋啓子 泉谷智美
井上泰子 榎本みつ枝 大園広子 大谷正穂
小野直子 音楽グループ「クリュティエ」土門華奈子 梶原孝子 (株)モノダスサンコー
菊間みどり さいたまのぶたこ 佐々木しのぶ 佐藤和子 佐藤久美 里見照子 渋谷けい子 少年少女みなみ 久保山菜摘 久保山千可子 関根敏子 高木裕子 高橋武三 谷村禎一・牧子 長棟かおる 中村順子 中村幸枝 西嶋香穂子 西村元子 日本キリスト教会折尾伝道所 婦人会 野中孝子 林田英明 引田良子 樋水カツ子 平田京子 藤ノ原良子 松井由美子 村上和代 めぐみ保育園職員一同 森悠子 吉田久美子 吉元京子 和田伸夫 和田茉莉恵

<2015年11月～2016年1月分の寄付内訳>

活動支援金	485,451 円
のぞみ21カンパ	28,500 円
雪だるま3号カンパ	20,500 円
東日本支援カンパ	65,000 円
合計	599,451 円

<都道府県別 / 計106名 (匿名含む) >

- 【青森県】1名
- 【東京都】3名
- 【長野県】1名
- 【富山県】1名
- 【静岡県】1名
- 【愛知県】1名
- 【滋賀県】1名
- 【京都府】1名
- 【兵庫県】2名
- 【鳥取県】2名
- 【島根県】4名
- 【広島県】10名
- 【山口県】5名
- 【愛媛県】1名
- 【福岡県】48名
- 【佐賀県】1名
- 【長崎県】3名
- 【熊本県】7名
- 【大分県】8名
- 【鹿児島県】5名

●マンスリーサポーターの皆さん / 計123名 (匿名含む)

相羽美香子 磯道綾子 一瀬和美 伊藤利恵 稲田照子 井上礼子 植田清子 内野千鶴子 有働聡美 江原健一 延壽富美 大麻卓子 大久保伸子 大久保弘子 大崎知恵 太田昌子 大場満 小黑慈子 落石久子 片山富美子 金山涼子 紙森優子 亀川早苗 河上雅夫 川崎君子 川崎清美 川尻愛子 木村雅子 倉掛大輔 古賀輝洋 古賀尚子 後藤宇企子 財津耐代子 財津悠子 斉藤美代子 阪口香奈子 坂口馨子 佐々野也依 佐竹早苗 佐藤一江 佐藤進一 佐藤照子 白浜千恵子 末永浩子 首藤展子 高山知佐子 竹田恵子 武田孝子 田中京子 珍部千鳥 土持秀男・由利子・朱加 綱脇牧子 富永隆史 鳥井原桐子 鳥原良子 永尾ゆかり 中島幸代 中島まゆみ 永野沙智子 西首延子 丹羽道代 納富育代 深川哲臣 福井初子 福本勅子 藤田優子 藤本孝子 淵田三輝 古川恵子 松尾智恵子 松木幸美 松永庸子 丸山さより 水本敬子 三野桂子 宮野義治 村西美由紀 村松知子 室屋芳乃 山下澄子 山中陽子 山本亮輔 吉田美抄子 渡邊久美子 渡邊真志子

http://www.che-9.to/dekinu2.html#month

●皆さまからのメッセージ (一部抜粋)

●地道な活動を続けておられることに頭が下がります。●コーヒー、袋からすでにとてもいい香りがしてきました。●チェルノブイリの方々に支援することが、福島原発事故で苦しめられている方々の支援にもつながると思います。●カンパでの自己満足にならないようにします。●活動、頭が下がります。良い年がくるように願います。●福島子どもたちの健康も気になってきましたね。●いつも美味しいコーヒーをありがとうございます。福島第一原発事故の後始末も避難者の支援もろくにしていない国が「国が責任を持つから」と原発を再稼働させていくことに強い憤りを感じます。●忘れていません。いつもお祈りしております。●必要な場所へ必要な支援が届きますように。●少しですが、お働きに感謝します。



1月から年度が変わり、2月の活動報告会・年次総会も無事に終わって、新たな気持ちで頑張っていこうと思います。今年はフクシマから5年、チェルノブイリから30年という節目の年。被災者の方々にとっては事故「後」ではなく、現在進行形でつづいている問題であることを心に留め、支援者の皆さまの想いを有効な形で届けることができるよう、スタッフ一同精進してまいります。(み)

